日蓮大聖人御書全集

ほうじょうやげんた

ごじょう

北条弥源太への御状

新版
858
〜
859

ほうじょうやげんた

ごじょう

北条弥源太への御状

ぶんえい

ねん

がつ

にち

さい

ほうじょうやげんた

文永5年('68)

10月11日

47歳

北条弥源太

い つきごらいりん

いそ

いそ

ごきたく

ほいな

ぞん

そうら

去ぬる月御来臨、急ぎ急ぎ御帰宅、本意無く存ぜしめ候

お

もうここく

ちようじようとうらい

かみいちにん

い畢わんぬ。そもそも蒙古国の牒状到来のこと、上一人よ

しもばんみん

いた

きようどうきわ

り下万民に至るまで、驚動極まりなし。しかりといえども、

ゆえ

ひと

し

にちれんか

ぞんち

いかなる故と、人いまだこれを知らず。日蓮兼ねて存知せ

すで

つく

しんらん

しむるのあいだ、既に一論を造つてこれを進覧せり。

しるしききだ

あらわ

すなわ

わざわ

かなら

のち

きた

い

徴先立って顕るれば、則ち災い必ず後に来る。去ぬ

しょうかがんねんひのとみはちがつにじゆうさんにちいぬいのこく

おおじしん

る正嘉元年丁巳八月二十三日戌亥刻の大地震、これしかし

ながら、この瑞ずいにあらずや。法華經ほけきょうに云わく「如是相によぜそう」。

てんださいしい ちちゆくだ よろこ ごときた かんじゃくな こうじん

天台大師云わく「蜘蛛下つて喜び事来り、鴉鵲鳴いて行人

きた えき い きつきょう どう しょう ほんもん

来る」。易に云わく「吉凶、動において生ず」。これらの本文

あに替かわるべけんや。

せん しよしゆう きえ とど いちじょうみようきょう しんじゆ

詮ずるところ、諸宗の帰依を止めて一乗妙經を信受

よし かんもん ささ そろろ にほんぼうこく こんげん じょうど

せしむべきの由、勘文を捧げ候。日本亡国の根源は浄土・

しんごん ぜんしゆう りつしゆう じゃほう あくほう お しょうしゆう め

真言・禅宗・律宗の邪法・悪法より起これり。諸宗を召

あ しよきよう しょうれつ ふんべつ たま こと きでん

し合わせ、諸經の勝劣を分別せしめ給え。殊に貴殿は

さがみのかみどの どうせい こんぼんめつ しょう

相模守殿の同姓なり。根本滅するにおいては、枝葉あに栄え

んや。早く蒙古国を調伏し、国土安穩ならしめたまえ。

はや もうこごく じようぶく こくどあんのん

法華を謗する者は、三世諸仏の大怨敵なり。天照太神・

ほつけ ぼう もの さんぜしよぶつ だいおんてき てんしやうだいじん

八幡大菩薩等この国を捨てたもうが故に、大蒙古国より

はちまんたいぼさつとう くに す ゆえ だいもうこごく

牒状来るか。今より已後、各々生け取りと成り、他国の奴

ちようじようきた いま いご おのおのい ど な たこく ど

と成るべし。

おもむき かたがた おどろ ぐじよう しん そうろう

この趣、方々へこれを驚かし、愚状を進ぜしめ候な

きようきようきんげん

り。恐々謹言。

ぶんえいごねんつちのえたつじゆうがつじゆういちにち にちれん かおう

文永五年戊辰十月十一日 日蓮 花押

きんじよう やげんたにゆうどうどの

謹上 弥源太入道殿